

見能林小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

主体的・協働的な学びを通して多様性を認め合い、互いに高め合う子どもを育成するための学習指導の実践

校長

竹治 直樹

学力向上推進員

島尾 由紀子

【各校の取組状況の把握について】

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

・学力向上に関する校内研修やアンケートの実施
・学年団による話し合い後、文書報告

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○課題に対して真面目に取り組むことができる。 ●既習の知識・技能を活用する力が十分でない。 ●読書量に差があり、語彙力が十分でない。	・学習準備を整え、話をしっかり聞いて学習に取り組むことができる。 ・漢字や計算など基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につける。 ・既習の知識・技能を、学習や生活と関連付けて活用できる。 ・図書や新聞を活用し、語彙力を高め正しい言葉で文章を書くことができる。	・学習の素地である「聞く力」を身につけられるよう、学校全体で取り組む。 ・朝の活動において、継続的に漢字・視写・音読・計算など基礎的・基本的な内容の習得を図る。 ・読書の楽しさを児童に体感させ、進んで読書に取り組めるような環境づくりをする。 ・タブレット端末の活用について研修を行い、積極的に授業等で活用し、児童が日常的に使用できるようにする。	・計画的に反復学習をさせる。 ・積極的に新聞や辞書、国語の教科書の巻末等を活用して、語彙力を高める。	・「聞く力」を高めるために、聞く聞くドリルや聴写を取り入れたことで聞く習慣が身についてきた。 ・漢字・計算・音読・ドリル学習など毎日の積み重ねを大切にし、基礎・基本が定着できるように努めた。 ・読書の時間を決めたり、新聞を読む場所を増やしたりして、活字に触れ、初めて読む文章に慣れていた。音読の宿題や視写でも新聞を活用しているが、語彙の習得や読む力には個人差がある。	・「見小っ子授業のルール」の見直しを行い、全教職員が児童といっしょにきちんと確認して、学習習慣の定着を図る。 ・引き続き、毎週配布される新聞を活用したり、読書をする時間を確保したりして、語彙力と読む力を高める。

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○タブレットの活用で思考の共有が効果的に行え、考えを深めることができるようになってきた。 ●話し合い活動などで意見を聞き、自らの考えを深めたり相手に伝えたりする力が十分でない。 ●複数の情報から必要な情報を読み取ることが苦手である。	・自分の考えを整理し、順序立てて話すことができる。 ・考えや思いを適切に文章に表現することができる。 ・相手の話をしっかり聞き、自分の意見をはっきり伝えることができる。 ・語彙を増やすとともに、豊かな表現力をつける。	・児童の思考につながるよう主発問を吟味し、思考の時間を十分に確保するとともに互いの考えを伝え合う時間をとる。 ・児童がICTを活用する授業を行い、考えを深めたり意見を交流したりする場面を設ける。 ・日記や作文、ノート指導、新聞活用などを通して、自分の考えを書く機会を増やす。 ・人に伝えることを意識し、声の大きさや発表の仕方を考えさせる。	・思考の過程を言語化する活動を設定し、表現力の向上を図る。	・ワークシートや振り返り活動を工夫したり、発表の機会を意図的に設定したりすることで、児童が自らの考えを整理し、書いたり伝えたりする力が身についてきた。 ・算数科では、自力解決の時間に自分の考えを書いてから、全体で意見を伝えることができた。練り上げの時には、順序立てて説明したり、友達の考えと比較しながら説明したりすることができた。ともに聞き合う姿勢もできてきた。 ・ICTの活用で思考の整理や共有がしやすくなった。	・読解力の向上を図る。文章の構造や要点を的確に捉える力を育成するとともに、資料の活用や根拠をもとに考える学習活動を充実させる。 ・表現の仕方や文章力をのばすために、言葉の意味調べや、短文作りなどを繰り返し行う。適切な言葉を用いて表現することができるようにする。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○学習のルールを守ろうと努力し、落ち着いて取り組めている。 ○ICT活用やさまざまな体験活動により、児童の学習意欲が高まってきた。 ●指示されたことはできるが、自ら課題を見つけ、解決していこうとする力が弱い。	・課題や自主学習に積極的に取り組み、学ぶ楽しさや分かる喜びを感じるることができる。 ・自分に合った課題を見つけたり、自分で考えて判断したりすることができる。 ・ICTを意欲的に活用し、探究的に学習に取り組むことができる。	・直接体験やオンライン教材を積極的に活用し、児童が主体的に取り組めるようにする。 ・家庭学習の手引きや自主勉強のよい見本を示し、学習習慣の定着や内容の充実を図る。 ・ICTの活用について、教職員自身が研修を深め意識改革を図る。 ・家庭や地域との連携を生かした授業展開を行う。	・継続して取り組む。	・自主学習ノートのよい手本を示すことで、学習内容の深まりが見られるようになった。しかし、個人差が大きく、主体的に取り組めない児童もいる。 ・様々な授業で、ICTの活用頻度を増やすことができた。自らタブレットのドリル学習に取り組む児童も出てきた。 ・総合的な学習の時間では、自分が設定した課題を解決するために、意欲的に調べたりまとめたりする姿が見られた。	・自主学習に主体的に取り組む児童とそうでない児童がいるため、自主学習の方法や、内容を充実させる手立てを考える。 ・普段の授業の中で、主体的な学習態度が育成できるように、児童自らが考え、取り組む姿勢を強化する。